

三重版



野良猫殺処分 減らそう

どうぶつ基金協力県、不妊手術に力

殺処分される猫を減らすため、野良猫に不妊手術を施して地域へ戻す活動に、県が力を注いでいる。公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県)に依頼して、不妊手術のノウハウを獣保健所の獣医師らに伝授してもらっている。ほかにも、クラウドファンディング(CF)の活用で関連費用を捻出し、民間の動物病院に不妊手術を担ってもらっている。



不妊手術を受け、耳の先端に「どうぶつ基金」を入れた猫。＝関係提供

県動物愛護推進センター「あすまいる」(津市森町)を施した。施された猫の耳の先には、サクラの花びらをデザインした「どうぶつ基金」のマークが入っている。県内の各保健所から一匹かたどって切り込みを入れずつかごに入れられた猫が集められた。生後四月以上で、不妊手術は「TNR先行型」の獣医師らが、一匹につき数

地域猫活動」という取り組みの一環。猫は繁殖力が強く、年に三回、一度に五十七匹を出産することができるとされる。野良猫を捕獲して不妊手術を施し、元いた場所に戻すTNR活動は、繁殖を未然に防いで野良猫の個体数を減らしていき、殺処分の回避やふん尿被害といった地域問題の解決を狙う。

CF活用 民間病院とスクラム



不妊手術の捕獲をする「どうぶつ基金」の獣医師と県の獣医師「津市森町の動物愛護推進センター」あすまいるのスタッフ

手術や協力病院での取り組みも合わせ、五万匹以上に無料不妊手術を実施。環境省によ

ると、二年度は十二万三千四百匹だった全国の猫の殺処分数は、二〇年度は一万九千七百五匹まで減っており、どうぶつ基金の佐久理理事長は「不妊手術をした猫が増えて、殺処分する数が減った」とTNR活動の効果を口にする。

県によると、増えた野良猫に関する苦情が目立ち始めたため、一四年ごろからTNR活動に取り組み始めた。今月一回、県の獣医師が民間の獣医師の指導の下、不妊手術に従事。このうち一回は、どうぶつ基金が携わっている「どうぶつ基金」による、行政の獣医師が、基金の獣医師の指導で不妊手術を実施しているのは他に熊本市だけだ。

また、県は、県内五十ほどの動物病院の獣医師に、診療時間外に不妊手術を施してもらう取り組みも展開。手術費の原資はCFで、あすまいるの佐々木友美所長は「手術のために捕獲するには、野良猫がどの地域にどのくらいいるのかを把握することが必要で、住民の協力不可欠。手術をして終わりではなく、地域猫を街全体で見守ってほしい」と思いを込めた。